

電磁波が怖いという男性

データをやりとりするのに、ちょっと前まではケーブルが必要でした。

今は、Wi-Fi や、5G等の無線伝送が常識で、私たちの周りには、無線電波＝電磁波が満ちあふれているのです。

テレビの液晶画面からも、電磁波は出ていますし、地球が誕生したころより、太陽からは電磁波が降り注いでいます。

太陽の表面では、ときどきフレアが発生を。強烈な電磁波を発生して、宇宙空間から地球に降り注ぎ、地上の電子機器に対して、重大な障害を与える磁気嵐を起こしたりもしています。

つまり、我々が生まれる前から、電磁波にさらされているのです。

ある日、電磁波が怖いという男性が来局を。家電店で、テレビが展示されている場所へ行くと、からだに何かを感じて、具合が悪くなるというのです。

インターネットで調べると、液晶画面が発する電磁波の影響だと、某大学の偉い先生が書いていたとか。

怪しい情報を信じないこと

私は、第1級アマチュア無線技士であり、電磁波について、少しは研究を。同軸ケーブルの網線に電磁波が乗ってしまったとき、フェライトコアで不要な電磁波を消去してしまうを通じ、悪影響を取り除くことも経験しています。

衣服を脱ぐとき、バチバチと静電気が発生を。あれは、電磁波ではなく、性質の違う繊維が擦れたときに発生する静電

店頭から「こんにちば」

第125回

時代の变化するばかりで、パソコン、スマートフォンが、切っても切れない道具となりました。無人島へ1つだけ持って行くとしたら、「スマートフォン」という答えが、当然の時代に……。

今の生活から離れられないのなら環境を受容していく
正しい情報を集め正しく恐れることが基本

気が帯電し、地面へ逃げようとするとき、突然バチッとくるものです。

静電気は接地すれば帯電することはなくなり、不快な思いはしなくて済みます。一方、電磁波は、からだに溜まることはなく、「心配いりません」と説明を。

私自身、大学院時代、脳の単一ニューロンの活動を測定するなどを研究。その際、微弱な電位の変化を外部からジャマされないよう、『シールドルーム』の中で測定することが必須だったのです。

部屋中が金属で覆われており、地面に接地されていて、中に入れば、ラジオはもちろん、スマートフォンも使えません。そこで、「そんな部屋で生活すれば、電磁波から守られますよ」と説明しました。

すると、「大切な電話が、スマートフォンにかかってきたら困るので、できません」と矛盾したことをいいます。

結局、今の便利な生活からは離れられないというのなら、その環境を受け入れるしかないのでしょうか。後は、気持ちの持ち方と、インターネット上の怪しい情報を鵜呑みにしないことが大切です。

「正しい情報を集め、正しく恐れ、万全を期す」という言葉のとおりだと思います。

宮川薬局(宮城県仙台市)代表
薬学博士・薬剤師

みやがわとしじ
宮川季士先生

プロフィール

1976(昭和51)年、東北薬科大学(現・東北医科薬科大学)卒業。'78(同53)年、同大学大学院修士課程修了。'87(同62)年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。「筋力を鍛えることは、お忘れなきように」

